

秋田

秋田と武雄を

2018年4月



「戊辰の役 戦没佐賀藩士慰霊団」様と武雄ロータリークラブから、交流の証として「戊辰の桜」54本を寄贈していただきました。そのうちの1本が武雄市役所敷地に植樹されています。

2018年8月



市内小学校20名の児童が秋田市を訪問し、5月に秋田竿燈の妙技を披露いただいた皆さまへ感謝の気持ちを伝えました。

2018年10月



穂積志秋田市長や小松武雄市長始め約50名が秋田市で行われた葉隠墓苑「第30回慰霊祭」へ参列しました。



スペンサー銃

レミントン銃

アームストロング砲

武雄軍団 秋田を駆ける
 茂昌は、秋田における佐賀藩の総指揮官に任命されました。およそ800名の武雄の兵は、アームストロング砲などの最新の兵器を用いて戦いました。彼らの活躍は、敵味方を問わず人々を驚かせました。これまでの研究や訓練の成果を大いに発揮した武雄の人々は、明治という新時代を迎えるにあたり、大きな役割を果たしたのです。

時を越えて縁を結ぶ
 戊辰戦争では、武雄を含め佐賀藩からも死者が出ました。1986年、秋田市での土地区画整備の際に、戊辰戦争で亡くなった佐賀藩兵士の墓が見つかりました。秋田の人々の調査によって、そのうちの1人、馬渡栄助の子孫が武雄で確認されました。このことがきっかけで、1988年、秋田に葉隠墓苑が整備され、毎年10月に慰霊祭がおこなわれています。1993年12月には、秋田の竿燈が武雄で披露されました。百数年の時を越えて、武雄の兵士らを取り持った佐賀と秋田の新たな交流の始まりとなりました。

秋田竿燈来武(平成5年)



武雄隊兵士の墓(秋田市・忠専寺)



その参



戊辰戦争絵巻

戊辰戦争とは、1867年、明治新政府軍と旧幕府軍との間で起こった戦いです。戦いは、京都から北陸、関東、東北地方へと広がっていきました。各地で凄惨な戦いが繰り返され、武雄もこの戦いに巻き込まれていきます。

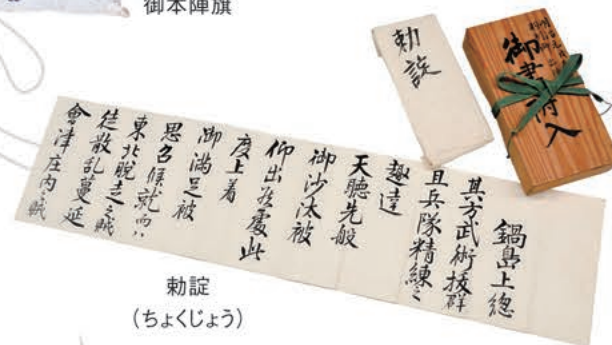
その肆

期待の助っ人 武雄軍団
 武雄領主の鍋島茂昌は、明治天皇から戊辰戦争への出兵を命じられました。佐賀藩の家臣に過ぎない茂昌が、天皇に直接お会いし、命令書(勅諭)などを受け取ったことは、異例なことでした。これは、父である鍋島茂義の代から始めた、当時最新の大砲技術の習得や軍隊の訓練などが高く評価されたためです。茂昌は、東北地方で唯一新政府側に味方した秋田(久保田)藩を助けるため、秋田・山形方面へ向かいました。



官軍忠勇千人之内「鍋島上総」(鍋島茂昌)

御本陣旗



勅諭 (ちよくじょう)

秋田と武雄の

絆

きずな

秋田竿燈まつりは、約270年の歴史をもつ国重要無形民俗文化財で、東北三大まつりの一つとされています。今年12日(土)、西九州新幹線開業を記念して4年ぶりに秋田の竿燈が武雄を訪れます。秋田と武雄、一見結びつきがないように思えますが、歴史を振り返ると実は深い繋がりがあるのです。